

# たけおクリニック 11月号

糖尿病専門医 田中 紗代子 先生

皆様こんにちは。

朝晩一段と冷え込むようになり、そろそろカイロが恋しい季節になってきました。

皆様お風邪等ひかれていないでしょうか？

わたしはとてとても寒がりなので、早くも、もこもこソックスともこもこパジャマで完全防寒して寝ています><

困みなのですが、先日、初めてピローミスト（枕用のコロン）を購入しました。

「WOOL」をイメージした香りなのですが、これがなんともまあ優しく温かみのある

とてもいい香りで、すごくリラックスしながら眠りにつくことができます♡

さて、今日は「**2型糖尿病の寛解の定義**」についてのお話です。

「寛解」とは、病気の症状が、一時的あるいは継続的に軽減した状態、または見かけ上消滅した状態のことで、特に癌や膠原病等の疾患で用いられることが多いです。

さて、「2型糖尿病は寛解するのか？」はこれまでも様々なところで論議されていますが、一定の見解を得ておりませんでした。

そこで今回、米国糖尿病学会が主体となって、ヨーロッパ・イギリスの糖尿病・内分泌学会合同で専門多職種チームを結成し、議論を重ねた上で2型糖尿病寛解の指標を作成したとのことで、Diabetes Care10月号「Consensus Report: Definition and Interpretation of Remission in Type 2 Diabetes」を簡単にご紹介させていただきます。



## ①寛解とは？

まず「寛解」を示す表現用語について、「resolution」、「reversal」、「cure」等様々な類似ワードが候補にあがりましたが、協議の結果「remission」を用いています。

その背景として、糖尿病の寛解の本来の意味は、あくまで病態の安定が一定期間続くこと（可逆的）、さらに糖尿病の発症機序は、インスリン分泌低下とインスリン抵抗性が潜在しており、治療をしても糖尿病が消失する可能性は低いこと、症状改善以降も定期的な医療機関でのフォローが必要であることが考慮されています。

## ②寛解の具体的な数値は？

2型糖尿病寛解の具体的な数値に関しては、 $HbA1c < 6.5\%$ とし、 $HbA1c$ が貧血や異常ヘモグロビン症等で正確な血糖を反映しない場合は、血糖値からの推定  $HbA1c$  値  $< 6.5\%$ 、あるいは空腹時血糖  $< 126\text{mg/dl}$  としています。

## ③治療介入下では寛解といえるのか？

あくまで薬物治療を行っていない状態で判断することが重要であり、薬物治療中止後少なくとも3ヵ月後に血糖評価をし、 $HbA1c < 6.5\%$ が3ヵ月以上持続することとされています。

#### ④寛解判断の時期は？

血糖が改善してもHbA1cに反映されるまでタイムラグがあること、またライフスタイル改善による効果発現には時間を要することから、治療介入開始後6ヵ月以降で判断することと述べられています。

#### ⑤寛解診断後のフォローは？

診断後、3ヵ月以上毎～1年未満毎にHbA1cを確認すること、また網膜症、腎症等の糖尿病合併症の評価を定期的に行うこととされています。

ただし、糖尿病寛解診断後の長期的な予後（心血管イベント発生、糖・脂質等の代謝の影響、死亡率 etc）については不明であり、引き続き追跡が必要であること、  
また、血糖降下薬としてではなく糖尿病発症予防でメトホルミンを内服している場合、寛解診断後の継続の必要性に関しても明らかにする必要があり、  
また寛解と一度診断された場合どこまでの期間その診断が持続するか、再発とみなす基準等もまだ不透明であり、こちらも今後の研究をもとに設定する必要があることがLimitaionとして挙げられておりました。

糖尿病は一生を通してフォローが必要な疾患であり、残念ながら、現在の医療では「完治」は難しい疾患です。  
しかしながら、今回「寛解」の診断基準が設定されたことで、血糖コントロールが良好な患者様に対して、血糖降下薬をフリーにする、通院間隔を延ばす等負担がすこしでも軽減できるいいきっかけになるのではないかと思います。